

# 知っちょる？ 統計やまぐち

## ③ 高齢者の交通安全

平成 23 年 11 月 17 日 掲載

高齢者の交通死亡事故多発警報が、9月と10月連続で山口県内に発令されたことをご存じですか？

今、高齢者の交通安全が身近で重要なテーマになっています。

県内の交通事故による年間死亡者数は、昨年・平成22(2010)年に96人と10年前の159人に比べると約4割減っています。しかし、死亡事故発生率は全国平均より高く、一昨年・平成21年は人口10万人当たりの死亡者数が7.38人で全国ワースト1を記録しました。

こうした中、65歳以上の高齢者が被害者となる交通事故が多発しています。高齢者が被害者となる死亡交通事故は、一昨年の58人から昨年は41人と減ったものの、死亡者数全体に占める割合は、約半分。うち3人に1人は道路横断中の歩行者でした。身体能力の低下により走ってくる車を見落としやすいこと、夜間はドライバーが右側からの横断歩行者に気づきにくいこと、などが主な要因とされています。

県内の65歳以上の2人に1人、75～84歳の3人に1人が運転免許を所持しています。死亡事故のうち5件に1件は高齢のドライバーが関わっています。安全の不確認や前方不注意などの認知・判断ミスが要因のようです。

県警では、高齢者の交通事故を防ぐため、戸別訪問などによる安全指導や、夜間外出時の反射材着用の周知徹底、運転が困難になられた方への運転免許の自主返納の呼びかけなど、交通安全対策に取り組んでいます。一人一人がスピードを落とし、思いやりのある安全な運転を心がけたいものです。

